

デンファレ(デンドロビウム ファレノプシス系)の育て方

デンファレはデンドロビウムの仲間ですが、一般にデンドロビウムと呼ばれているノビル系品種に比べて、寒さに弱い点や花茎が長く伸びる点などが異なるため、栽培するうえでは注意が必要です。

栽培管理

置き場所

梅雨に入ったら戸外に出します。日が十分当たる風通しのよい場所を選び、雨水のはね返りのない棚上などに置きます。秋から春にかけては日光に十分当てますが、夏は葉焼けしないように寒冷紗などで30%遮光します。

デンファレは低温に弱いランです。秋の彼岸ごろからは室内に入れ、最低温度を10℃～15℃以上に保つようにしましょう。

水やり

温度が保てると一年中生育していますので、植え込み材料の表面が乾いたらたっぷり水やりします。晩春～初秋は、ほとんど毎日になります。冬に栽培温度が10℃前後まで下がるようであれば、植え込み材料の表面が乾いてからさらに2～3日待って、暖かい日の午前中に水やりをします。

肥料

春～秋に与えます。置肥でも液肥でもかまいません。

支柱立て

花茎が伸びてきたら、支柱を立て、茎と花茎の両方を支えます。

病害虫の防除

ウイルス病に感染した株は、見つけ次第処分するか、他の株から隔離しましょう。また、新芽が腐る軟腐病や、葉に黒い斑点が入る黒斑病などが発生することがあるので、ベンレート水和剤などの殺菌剤で防除します。新芽やつぼみにアブラムシやナメクジの発生がよく見られます。オルトラン等の殺虫剤やナメカット等の殺ナメクジ剤で防除します。

デンファレの年間管理表

| 管理 | 月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|-----------------|---|----------------|-----|----------|---|---|-------------|---------------|----|----------|---|---|---|
| 置き場所 | | 戸外 | | | | | | 室内 | | | | | |
| | | 最低温度10～15℃ | | | | | | | | | | | |
| 日当たり (%は遮光率) | | 日によく 当てる | 30% | | | | 日によく 当てる | ガラス越しの日によく当てる | | | | | |
| 水やり | | 植え込み材料の表面が乾いたら | | | | | | 用土が乾いて2～3日後 | | | | | |
| 肥料 | | ● 置 肥 ● | | 液肥10日に1回 | | | | | | | | | |
| 作業 | | → 植え替え | | → 支柱立て | | | | | | ← 植え替え ← | | | |
| | | → 高芽とり | | | | | | ← 高芽とり ← | | | | | |